



# 「鍼灸」は「効果」があるのか？

文●関忠雄

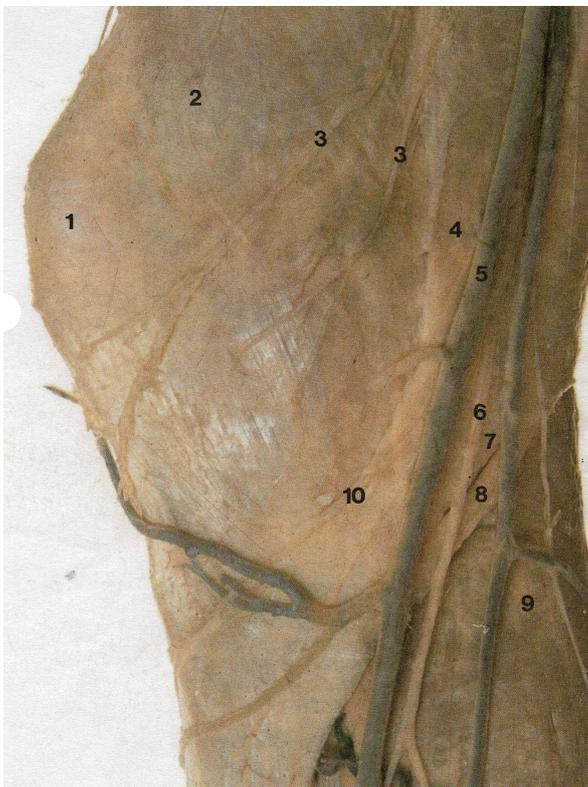
## 第3回

### 膝関節の鍼灸治療

**1 膝に腫脹を伴わない場合  
(膝に水がたまっていない  
とき)**

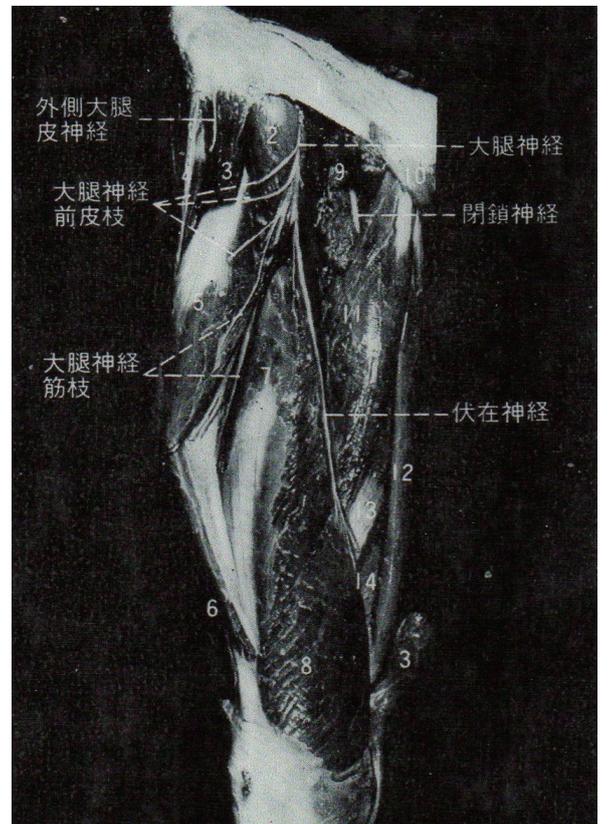
歩きすぎて膝が痛い、階段の昇り降りをしすぎて膝が痛いなど立ち座りに痛みを生ずることは日常よく経験する。軽症の場合(腫脹がない場合)はその神経組織の興奮状態を変えてやれば痛みはおさまり元の状態にかえっていく。

神経の構造は写真①のようになっている。大腿神経・伏在神経(特に痛みを感じる部分・写真②)に数本刺鍼し、大腿四頭筋がリズムカルに動く程度に通電治療する。数本刺鍼し鍼にクリップをすれば鍼を何回も抜き差しするよりも患者の負担は少ない。同時



(写真①) 膝関節の神経構造

に間接灸もしくは直接灸をすればなお良い。結合組織に温熱刺激を加えることだからである。この場合は通常に通電治療と同じである。



(写真②) 膝関節の大腿神経・伏在神経

**2 膝に腫脹を伴う場合(膝  
に水がたまっているとき)**

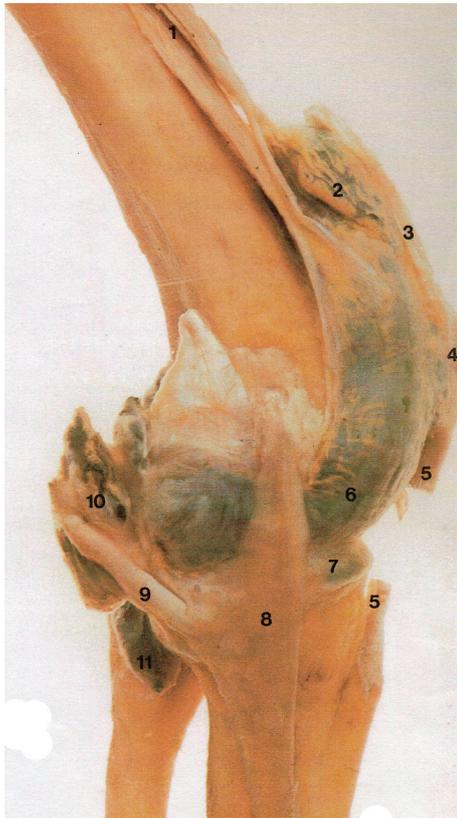
膝の関節の構造は写真③のように、関節胞は関節を傷めないようになっている。しかし、膝は歩く、走る、跳ぶ、など運動する際に大変多く使い、特に激しいスポーツをする人が膝を酷使すると、炎症を引き起こす可能性が高くなる。また、運動不足の人が急に運動して膝に負担をかけるのも炎症を起こす元となる。これらの関節の動きで関節面にX線やCT・MRIにも写らない傷をつくる。つまりこれは関節が炎症を起こしている状態である。

関節炎を起こした場合それを修復するために人体はそこに血液を送り

込み修復を始める。つまり炎症の5つの症候が始まる。発赤・腫脹・発熱・疼痛・機能障害である。膝に腫脹を伴わない場合に比べてこの場合は重症である。まず腫脹をとらなければならぬ。腫脹の軽減により神経線維の圧迫がなくなり痛みが軽くなるからだ。

### 関節に水がたまるとは

関節腔に関節液がたまっていく状態。関節面に何らかの理由から傷がつくと、それを修復しようとして血液の中から栄養分補給しようとする。この状態を外から見ると膝に水がたまつたように見える。人体が炎症を治そうとしていっているのだが、治療は関節液を取り去り炎症を早く修復することである。



(写真③) 膝関節の構造

## 腫脹のある膝痛に使用する 九星鍼について

九星鍼は私が師事した昭和の名鍼灸師倉島宗二氏が中国の梅花鍼を参考にし、鍼先を九つにし鍼体を梅花鍼より小さめに改良したものである。このため倉島式九星鍼として販売されている。倉島氏に直接聞いた話では、九星鍼は炎症のある部位の近くに人為的に小さな炎症をつくることにより、人体が炎症を回復させる物質をつくるのをさらに早めるための目的はわざと小さな炎症をつくることにある。

腫脹のある膝痛は、まず腫脹をとる目的で九星鍼を行う。九星鍼の後はその回りをきれいにアルコールで消毒する。その後刺鍼し通電法を行う。患者さんには腫脹している膝

を家で冷やすように指導する。市販されている保冷剤で冷やす場合は15分を目安にするよう注意する。過度に冷やしすぎると凍傷を起こすことがある。濡れタオルで冷やす場合は凍傷を起こす心配がない。

### 穿刺について

以前は膝が腫脹した場合、頻繁に膝から水を取ったが、この頃は患者が「水を抜くとクセになる」といった話をよく耳にしていた。水を取るのには良くないと穿刺するのを嫌がる場合が多い。しかし、穿刺は腫脹を軽減するのが目的であるから(それにより圧迫されている神経組織の痛みを軽減する)、同時に炎症を鎮める療法を併用して行うならば、患者にとっては苦痛を取り除くことと治癒を促進させるといふ両方の恩恵がある。

自分の体重の保持と膝関節の屈伸の自由という矛盾した動きをする膝関節は鍼灸師にとっては難しい疾患の一つである。この疾患については鍼灸師だけでなく他の治療方法も考えながら治療することが膝疾患に苦しむ人に必要であらう。



## 関 忠雄 Seki Tadao

- 1949年 長野県生まれ
- 1973年 中央大学法学部卒業
- 1978年 早稲田鍼灸専門学校卒業
- 倉島宗二師に師事 臨床鍼灸学を研修
- 関鍼灸治療室を開設
- 2003年 新潟大学医学部第一解剖学教室で末梢神経(自律神経:迷走神経)解剖を研修
- 研究題目「迷走神経と経絡との解剖学的相関について」
- 2005年 佐野動物病院にて獣医学を研修
- 2006年 名古屋市れもん鍼灸接骨院院長
- 2013年 アルゼンチン(フ・バレイラ)鍼灸院院長
- 2016年 アルゼンチン、ドイツ、日本(名古屋)にレモンバーム・アカデミー開設
- 2018年 アルゼンチンから帰国